

研究区分	教員特別研究推進 教育推進
------	---------------

研究テーマ	PBLチュートリアル方式による症例基盤型学習における学年横断運用を目指した検討				
研究組織	代表者	所属・職名	薬学部・教授	氏名	内田 信也
	研究分内田信也担者	所属・職名	薬学部・講師	氏名	柏倉 康治
		所属・職名	薬学部・助教	氏名	田中 紫茉莉
		所属・職名		氏名	
	発表者	所属・職名	薬学部・教授	氏名	内田 信也

講演題目	PBLチュートリアル方式による症例基盤型学習における学年横断運用を目指した検討
研究の目的、成果及び今後の展望	<p>現在運用されている「薬学教育モデル・コアカリキュラム（コアカリ）」では「薬剤師として求められる基本的な資質」を前提とした学習成果基盤型教育（outcome-based education）に力が置かれている。学習成果基盤型教育では、問題解決能力や薬剤師としての能力の醸成を目指した教育が重要である。薬学部の4年次では、薬物治療の症例検討を問題基盤型学習（PBL）-チュートリアル方式で行う「臨床薬学演習」を実施している。この科目は実際の患者の症例を基にもとにしたアクティブラーニングを主体とした教育である。実際の患者症例を扱うことで、学生が臨床現場への臨場感を感じながら、薬物治療についての知識だけでなく薬剤師としての心構えや病者への配慮などの態度についても学ぶことが可能である。従って、症例基盤型学習を入学後の早い時期から学年横断的に進めることができれば、薬学を学ぶ学生にとって必要な知識と態度、倫理性が身につくことが期待される。本課題では、PBLチュートリアル方式による症例基盤型学習における学年横断運用を目指し、その学習方法についての検討を行う。</p> <p>PBLチュートリアル方式による症例基盤型学習は薬学科4年次の臨床薬学演習として開講している。本年度は、新型コロナウイルス感染症の流行により、対面での演習は短期間（2週間）のみであった。その他の演習はZoomを用いたオンライン形式とした。まずZoomにおいて導入講義を行い、症例基盤型学習における本演習の進め方について講義した。さらにオンデマンド方式で、臨床薬学演習での症例検討を始めるにあたっての基本的な知識を講義した。内容は1. 症例におけるプロブレムリストの作成、2. 症例への薬学的介入のための情報収集とプランの作成（SOAP形式）、3. エビデンスの扱い方、4. エビデンス調査のための文献検索、5. 実践的な薬学的介入と処方設計、である。演習期間中は随時視聴可能とし、学生が演習に参加中の必要時に参照できるようにした。学生の小グループ討議（SGD）は1班8名前後として、Zoomのブレイクアウトルーム機能を用いて行った。またこのSGDにチューター（臨床実習を終えた上位学年の学生）が陪席した。学生のSGDの結果は発表会にてプレゼンテーションし、参加している教員と学生、チューターで質疑を行った。振り替えることができるように</p> <p>さらに、来年度からはこの演習を薬学科1年次より開始する。薬物や疾患の講義を受けていない低学年の学生が、薬物治療のSGDを行うためにはどのような工夫が必要かについての検討を行っている。加えて、本演習が臨場感を持ちつつ、倫理観や薬剤師などの薬学専門家としてのプロフェッショナルリズムの涵養、並びにコミュニケーション能力の養成が進むように、学年横断的なプログラムの整備を行うつもりである。</p>